

【福岡女学院教会 主日家庭礼拝】

2025. 3. 30.

復活前 第3主日

黙 想 (黙 禱)

招 詞 主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、
近くにいますうちに。主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
(『讃美歌 21』93-1-31)

讃美歌 18 (「心を高く上げよ!」)

主の祈り

讃 詠 28 (み栄えあれや)

聖 書 マタイによる福音書 17章1節～13節
(新約 32頁)

信仰告白 使 徒 信 条

メッセージ 「これはわたしの愛する子」 多田玲一牧師

祈 禱 ※それぞれ自由にお祈り下さい

讃美歌 280 (馬槽のなかに)

頌 栄 27 (父・子・聖霊の)

黙 想 (黙 禱)

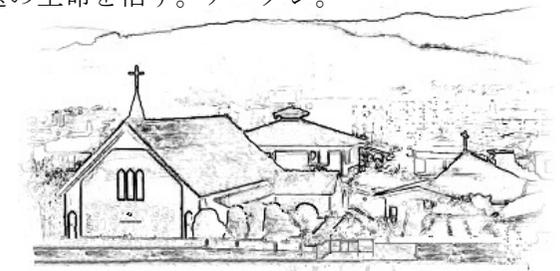
◎ 讃美歌は歌詞を読むだけでも結構です。

【主の祈り】 (『讃美歌 21』93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあげさせたまえ。
み国を来(きた)らせたまえ。
みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。
我らの日用(にちよう)の糧(かて)を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、悪より救い出(いだ)したまえ。
国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。
アーメン

【信仰告白 使徒信条】 (『讃美歌 21』93-4-A)

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがへり、
天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、
かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、
身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。アーメン。



日本基督教団 福岡女学院教会

牧 師 多田玲一

協力牧師 青木麻里子、大島一利

〒811-1321 福岡市南区柳瀬1丁目41-32

TEL 092-591-5627 (Fax 兼)

教会ホームページ [http:// www.fukujoch.com/](http://www.fukujoch.com/)

(教会創立 1946年6月2日)



3月30日 マタイによる福音書 17章1節～13節

◆イエスの姿が変わる

- 1 六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。
- 2 イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。
- 3 見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。
- 4 ペトロが口をはさんでイエスに言った。「主よ、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」
- 5 ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。
- 6 弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。
- 7 イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」
- 8 彼らが顔を上げて見ると、イエスのほかにはだれもいなかった。
- 9 一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。
- 10 彼らはイエスに、「なぜ、律法学者は、まずエリヤが来るはずだと言っているのでしょうか」と尋ねた。
- 11 イエスはお答えになった。「確かにエリヤが来て、すべてを元どおりにする。
- 12 言うておくが、エリヤは既に来たのだ。人々は彼を認めず、好きなようにあしらったのである。人の子も、そのように人々から苦しめられることになる。」
- 13 そのとき、弟子たちは、イエスが洗礼者ヨハネのことを言われたのだと悟った。

※聖書は本文は全て、日本聖書協会『聖書 新共同訳』